

わたしはぶどうの木、  
 あなたがたはその枝である。  
 人がわたしにつながっており、  
 わたしもその人につながっていれば、  
 その人は豊かに実を結ぶ。  
 ～ヨハネによる福音書15：5-9～



shalom (シャローム) は「平和」を意味するヘブライ語。  
 「こんにちは」「さよなら」の挨拶として使われています。

見よ、わたしは使者を送る。彼はわが前に道を備える。あなたたちが待望している主は突如、その聖所に来られる。  
 あなたたちが喜びとしている契約の使者 見よ、彼が来る、と万軍の主は言われる。 マラキ書3：1

今年もあと1ヶ月でクリスマス。街も華やいでワクワクする季節ですが、聖愛生の皆さんなら、クリスマスがイエスの誕生日ではなく「イエスの生誕を記念し祝う日」であることは知っていますね。そもそも、イエスが生まれた年さえ良くわからないのですから、誕生日などわかるはずがありません。では、12月25日は誰の誕生日？これが今回のお話です。

クリスマスの始まりについては、最近では「不敗の太陽神」の誕生日がクリスマスの起源だと言われています（太陽神は死と復活を繰り返すので「再生日」が正しいそうです）。では、その不敗の太陽神って誰でしょう？

この神様は、通称「ミトラ神」と呼ばれるミトラ教の神様です。ミトラ教は、古代ローマでも広く信仰された歴史ある大宗教で、世界最古の一神教といわれるゾロアスター教は、ミトラ教の一派がペルシャの国教になったものです。また、仏教の弥勒菩薩は、ミトラ神の別名です。ミトラ教は、由緒ある超メジャー宗教だったのですね。

ミトラ教の最盛期はローマ帝国時代です。ローマ帝国は、征服地の宗教を次々と取り入れて、多くの神々を祭っていましたが、最終的にミトラ教がローマ帝国の認める宗教の主流になりました。ところが、ここで登場したのがキリスト教。初めは、キリスト教はユダヤ教の後継宗教とされ、ローマでは親しみを持たれないユダヤ人の民族宗教でした。そこで、当時メジャーだったミトラ教の要素を取り入れ、教父たちがキリスト教をミトラ教風に味つけしたのです。

この宗教改革は大成功でした。ミトラ教の後継宗教としてデビューしたキリスト教は、ミトラ教を信仰していたローマの人々に流行し、313年に、キリスト教をローマ帝国の統治に利用しようと考えたコンスタンチヌス帝の「ミラノ勅令」により、キリスト教は他の宗教とともに公認されることになりました。

しかし、まだミトラ教を信仰している多くの人々をどうするかが問題になりました。特に、当時ローマ帝国に移住していたゲルマン系民族は、先祖代々ミトラ教を信仰していたため、ミトラ教とキリスト教の宗教対立がローマ帝国の危機につながる可能性がありました。そこで、コンスタンチヌス帝は「両方を合体させよう」と一計を案じました。こうして、325年に、ニケーア公会議において、イエス・キリストとミトラ神の誕生日を同じ日にすることが決定されたと言われています。さらに、念には念を入れて、キリスト教とユダヤ教の違いを明確にするため、ユダヤ教では「土曜日=安息日」と定めていたところを、キリスト教ではミトラ教の聖日「日曜日=安息日」に変更しました。その間にも、ユリアヌス帝によってミトラ教の復活を試みる反撃もありましたが、392年、テオドシウス帝がミトラ教を禁止したことで、キリスト教はローマ帝国の国教に認定されました。

少し難しい話でしたか？クリスマス誕生には、いろいろ複雑な事情があったのですね。

もっとも、これは1つの説です…念のため。

聖愛では、12月2日(木)のクリスマスツリー点灯式から本格的にクリスマスの雰囲気包まれます。

今年のクリスマスは、きっと世界中にたくさんの笑顔があふれると信じています。



◆令和3年度弘前地区中体連秋季特別大会 卓球競技結果 11月14日(日)

1年 小林 流碧 個人シングルス ベスト8